

敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

平成 30 年度



地域・在宅ケア研究センター

はじめに

地域・在宅ケア研究センター（以下研究センターとする）は、地域の人々の健康を守り、安心して暮らせることを目指すために、地域と大学のかげはしになることを目的に設立されました。地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究活動を模索し、本年度で設立から5年目を迎えました。

研究支援活動として、地域における看護職を対象に、研究入門講座や研究サポートを行いました。今年度は、対象地域を嶺南地域に拡大し、小浜病院から多くの方が参加してくださいました。また、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的として第2回研究報告会も開催いたしました。

地域住民の健康づくり活動として、「病気・ケガの予防」というテーマのもとに、4回の看護大学健康講座を開き、住民と交流しながら、講演や体力チェック、健康相談を行いました。健康講座のテーマを広報で案内したことにより、講座内容に関心をもって参加して下さる方も少しずつではありますが増えてきました。敦賀FMハーバーステーションを活用して「敦賀市立看護大学だより」という題名で、教員の研究内容や健康に関する情報を放送しましたが、効果は把握できていません。

また、地域で開催されるイベントなどには積極的に学生や教職員が参加し、地域の方々と交流しました。

以上のような活動を、平成30年度報告書としてまとめました。内容や方法について、皆様のご意見やご助言をいただき、活動に活かしていきたいと思っております。

平成31年3月

地域・在宅ケア研究センター長

畑野 相子

目 次

はじめに

I 教育

1. 看護研究方法論講座

- (1) 平成 30 年度看護研究入門講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 講座受講者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 入門講座に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (4) 講座総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (5) 研究指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2. 看護大学健康講座

- (1) 平成 30 年度看護大学健康講座事業の実績・・・・・・・・・・ 4
- (2) 看護大学健康講座まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

3. 出張講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

4. FM ラジオ放送 (敦賀 FM 放送)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

II 研究

1. 研究報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

III 地域への協力

1. 敦賀市事業への協力

- (1) 男性のための元気づくりスクール (男の道場)・・・・・・・・ 11
- (2) 女性のための元気づくりスクール (女の道場)・・・・・・・・ 11

2. 美浜町事業への協力

- (1) 美浜町はあとびあまつり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (2) 美浜町健康づくりフォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

3. 平成 30 年度ボランティア参加実績・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4. 地域行事参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

添付資料

資料 1 看護方法研究論講座 実施要領・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

資料 2 敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項・・・・・・・・・・ 16

I 教育

1. 看護研究方法論講座

(1) 平成 30 年度看護研究入門講座概要

本学において、看護研究に関する講義を行った。

講義の日時、内容、担当教員名を表 1-1 に示した。

表 1-1 平成 30 年度 看護研究入門講座概要

		内 容	担当
1 日目 (2月9日)	①13:00～13:30 (30分)	看護研究の概要と研究課題について	交野好子
	②13:30～14:40 (70分)	テーマ：文献検索の方法 内 容：文献検索の演習	住本和博 野沢和也
	③14:50～16:20 (90分)	テーマ：文献のクリティーク 内 容：文献の読み方についての講義と演習	吉川由希子
2 日目 (2月16日)	④13:00～14:20 (80分)	テーマ：研究の種類・量的研究 内 容：量的研究の進め方の講義	個別相談 池原弘展
	⑤14:30～15:50 (80分)	テーマ：研究の種類・質的研究 内 容：質的研究の進め方の講義	
	⑥15:50～16:20 (30分)	内 容：個別相談	センター運営 委員
3 日目 (3月9日)	⑦13:00～14:00 (60分)	テーマ：研究の倫理と倫理審査 内 容：研究に必要な倫理と本学研究倫理審査 会に必要な内容についての講義	杉浦良啓
	⑧14:10～14:20 (10分)	今後の進め方について グループ演習の導入	畑野相子
	⑨14:20～ (約 100 分)	テーマ：研究計画書の作成 内 容：研究計画書の作成の演習 個別相談	センター運営 委員 吉川由希子 池原弘展



(2) 講座受講者の状況

施設別受講者数を表 1-2 に示した。

表 1-2 平成 30 年度 看護研究入門講座参加状況

施設名	講義			参加者 延べ数
	2月9日	2月16日	3月9日	
敦賀医療センター	10	9	8	27
敦賀生協診療所	2	1	3	6
ハピナス	1	0	0	1
敦賀温泉病院	3	2	2	7
公立小浜病院	14	10	14	38
合計	30	22	27	79

(3) 入門講座に対する評価（参加者へのアンケートの単純集計の結果より）

講義全体を通じた難易度について、「とても難しかった」「難しかった」と回答した割合は、2月9日 48%、2月16日 83%、3月9日 46%であり、前年度に比べ低く、わかり易い講義であったと考える。講義が参考になったかについては、どの講義においても、全員が「とても参考になった」「参考になった」のどちらかに回答していた。参考になった具体的内容について以下に記す。

<2月3日>

- ・概要が分かりやすく、研究に対して苦手意識がうすまった気がする。もっと講義を聞きたかった。
- ・文献の読みすすめ方など、実際の論文を用いながら考えることができとても参考になった。

<2月17日>

- ・量的研究は難しいというイメージでしたが数字から傾向をつかむだけでもよいということが印象に残った。
- ・資料を用いて、インタビューガイド、データの収集から分析の妥当性までを講義して頂いた所が分かりやすかったです。

<3月4日>

- ・学生の頃に学んで以来の倫理の学習（講義）であったので、復習のみならず、新しい情報も得ることができました。
- ・研究計画書の書き方、リサーチクエスションの進め方について大変参考になりました。

(4) 講座総括

参加者は、95%看護師、5%が助産師であった。経験年数は10年未満のものが、62.5%を占めていた。また、48%が研究に関する研修会に参加した経験がなく、参加者の35%が看護研究に取り組んだ経験がなかった。これらのことから、本講座が、市内の医療機関の看護師の研究に関する入門の研修会の場として認識・活用されていることが伺えた。

今年度から、対象地域を嶺南地域に拡大したことから、受講者数は過去の講座に比べ増加した。また、2日目には入門講座と並行して研究相談コースも設けたが、相談者はなかった。

3日目の研究計画書作成の演習は7つのグループに分かれて行った。リサーチクエストンについての討議や事前に考えてあった研究計画書をもとに検討するなど、時間が足りないほどだった。その後、文献検索する人もあった。研究が面白くなってきたとの感想も寄せられた。研究入門の講座をどのように発展させていくかが今後の課題になると考えられる。

(5) 研究指導

講座受講後、研究指導申し込みが8件あり、研究をサポートした。

8件とも国立病院機構敦賀医療センターからの申し込みであった。平成31年1月30日～1月31日にかけて国立病院機構敦賀医療センターで発表会が開催され、研究成果が発表された。担当教員は講評を行った。研究テーマ、発表者、指導教員を表2-1に示した。

表 2-1 平成 30 年度 研究指導実績

No	テーマ	施設名	発表者	担当教員
1	がん患者に対する心づもりアンケート実施後の看護師ケアへの困惑感の変化 ～一般病棟看護師の終末期がん患者のケアに対する困難感尺度を用いて～	国立病院機構 敦賀医療センター 【2階病棟】	梅津 智美	高鳥真理子
2	せん妄教育プログラムを受けた病棟看護師の高齢患者に対するせん妄ケアの現状 ～病棟看護師へのインタビューを通じて～	国立病院機構 敦賀医療センター 【4階病棟】	谷川 翔	木谷 尚美
3	手術室における効果的な教育の模索	国立病院機構 敦賀医療センター 【手術室】	矢野麻利江	高原美樹子
4	ターミナル期にある重症心身障がい者の緩和ケアに対する看護師の意識調査 ～日々の振り返りを通して～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟3階】	上野 早苗	高原美樹子
5	退院支援パスの効果的な活用に向けた取り組み	国立病院機構 敦賀医療センター 【3階病棟】	川寄 彩香	伊部 亜希
6	一般病棟から地域包括ケア病棟への転入に伴う患者の不安を明確化するための研究	国立病院機構 敦賀医療センター 【5階病棟】	江南美紀代	長井麻希江
7	重症心身障害児のスキンケアに関する看護師の意識・行動調査 ～保湿・鎮痒を目的とした軟膏塗布に着目して～	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟1階】	酒井 萌	吉川由希子
8	重心病棟で用いている埋込み式便器の排泄時の跳ね返りによる汚染程度の把握	国立病院機構 敦賀医療センター 【ひまわり病棟2階】	末永 文香	池原 弘展

2. 看護大学健康講座

看護大学健康講座の概要

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気楽に集い、交流する場を提供することを目的に、平成 27 年度 3 月から「看護大学喫茶」を開始した。平成 30 年度からは、講演を主とした「看護大学健康座」に名称を改めた。内容は、教員の専門性を活かした講演、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組める契機となるような健康チェック(体力測定)・健康相談である。

(1) 平成 30 年度看護大学健康講座事業の実績

平成 30 年度は、4 回開催した。概要は表 1 に示した。

表 1 開催状況と参加者数

開催日時		場所	内容	従事者	参加者	備考	
第 1 回	7/7 (土)	10:00- 12:00	本学	①講演「熱中症」 杉浦 良啓 教授 ②健康チェック (体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナー	32 名 ・教職員 8 名 ・学生 24 名	9 名	在宅看護学 分野選択者
第 2 回	10/20 (土)	10:00- 12:00	大学	①講演 「秋に思う“脚”と“口”の健康」 鈴木 隆史 講師 ②健康チェック (体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナー	14 名 ・教職員 8 名 ・学生 6 名	9 名	公衆衛生看護 分野の学生 4 名参加
第 3 回	10/28 (土)	10:00- 12:00	大学	①体験コーナー 「応急手当の体験」 河合 正成 講師 災害・救急分野専攻学生 ②健康相談	11 名 ・教職員 7 名 ・学生 4 名*	47 名	大学祭と 同日開催
第 4 回	3/5 (火)	10:00- 12:00	大学	①講演 「子どもの健康～ウンチの話」 吉川 由希子 教授 ②健康チェック (体力測定) ③健康相談 ④喫茶コーナー	10 名 ・教職員 9 名 ・学生 1 名	11 名 (子ども 2 教員 4 名)	RCN 取材

(2) 看護大学健康講座まとめ

今年度より、講演を主とした「看護大学健康講座」に名称を改め、「病気とけがの予防」をテーマに4回開催した。講演テーマも子どもの健康から熱中症予防、生活習慣病予防など多岐にわたり、幅広い年代の参加が得られた。参加者全員から、参考になったと高評価が得られた。しかし、各回ともに昨年度より参加者数が減少し、全体では半減した。参加者が少ない分、個別の健康相談への対応が十分にでき満足度は高まったと考える。しかしながら、住民に幅広く健康に関心をもってもらうためには、参加者をいかに増やすか、さらにリピーターを増やすことが課題である。今後はテーマに応じて、①チラシを効果的に配る、②開催日および時間帯を再考する、③チラシ等に大学へのアクセス方法についての情報を追記する等、参加者増に向けて取り組むこととする。また今年度も引き続き、学生がボランティアとして参加した。学生の教育の場としての活用も継続していく。



写真1 講演：熱中症



写真2 講演：子どもの健康



写真3 大学祭と同時開催「応急手当の体験」



写真4 脚の健康「バランスをチェック」



写真5 健康チェック

3. 出張講演

出張講演として、教員のそれぞれの知識と知恵を活かして、住民の皆さまや専門職の方を対象とした教養講座と健康講座を開設している。講座テーマを提示し、その中から聞いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル、会社等のグループ単位で申し込んでもらい、日時、場所等を調整したうえで実施している。

平成 30 年度の実施状況を下記に示した。

平成 30 年度 敦賀市立看護大学 出張講演実施状況

No.	実施日	対象団体	講演テーマ	講師	実施場所	受講人数
1	7月5日	美浜町健康づくり推進員	生活習慣病としてのがんにならないために	喜多義邦教授	美浜町保健福祉センター	26
2	7月30日	つるが男女共同参画ネットワーク	からだのリズムと睡眠	林愛乃助教	敦賀市立看護大学	30
3	8月9日	南元気会 (敦賀市)	ストレスとの上手な付き合い方	杉山由香里助教	敦賀市南公民館	33
4	8月21日	敦賀市地域自立支援協議会 在宅者地域支援部会	地域で共に暮らし共に働く社会を目指して	長井麻希江教授	二州青松の郷 (敦賀市)	30
5	9月26日	美浜町健康づくり課	・くすりの常識、非常識 ・昔のくすり、今のくすり	山崎弘美教授	美浜町佐田公民館	33
6	10月24日	中郷地区老人会 (敦賀市)	あなたの「足」お元気ですか？	鈴木隆史講師	敦賀市中郷公民館	92
7	3月15日	美浜町健康づくり課	笑いは心のオアシス	畑野相子教授	美浜町佐田公民館	21
8	3月26日	美浜町健康づくり推進員	感情やストレスとの上手な付き合い方	長井麻希江教授	美浜町保健福祉センター	26

4. FM ラジオ放送 (敦賀 FM 放送)

毎週月曜日の午前7時・7時20分・7時40分の3回、敦賀FM(番組名:おはようマイタウン)で、研究成果や健康に関する内容を放送している。内容を表4-1に示した。

表4-1 放送月別 テーマと放送の概要

月	氏名	テーマ	概要
2018年 4月	住本 和博	母体内の赤ちゃんの元気の評価方法	医用機器を用いた母体内の赤ちゃんの元気を評価する二つの方法についてお話した。一つは超音波診断装置を用いた画像によるもの、もう一つは胎児の心拍数を連続してモニタし、その波形変化から評価する方法である。従来は直接安全に胎児の情報を得ることができず母体中心の管理であった。しかし、このような方法を用いることにより、胎児の情報を容易に得られるようになり、胎児も一人の患者さんとして管理できるようになった。
5月	高鳥 真理子	生体リズムと自然のかかわり	24時間の生体リズム(サーカディアンリズム)調整における、太陽光を浴びること、および大地にふれることの重要性について述べた。太陽の光を浴びると、心を安定させるセロトニンや睡眠ホルモンであるメラトニンが生成される。同時にビタミンDの活性化も図られる。これら物質は、免疫力の向上や発がんの抑制に大きく関与している。また、大地に裸足や素手でふれると、老化や炎症の誘発につながる体内の静電気や活性酸素が中和される。
6月	高原 美樹子	五木寛之の「遊行の門」の紹介	私たち人間は、赤ん坊のころからすべてを学び、記憶し、知識を身につけて成長する。 遊行期とは、そこから戻っていく時期なのだ。老いていく自分は、子供に還っていく人間の自然な姿、物忘れを嘆くことはない。成長する中で身につけた知識と記憶を少しずつ返していくのだ。子供に還り、赤ん坊に還り、やがて誕生した場所へ還る、それが死というのである。これらの言葉に惹かれ、五木寛之の「遊行の門」を紹介した。
7月	中堀 伸枝	「認知症の予防」	2014年に富山県の65歳以上を対象に行われた「認知症高齢者実態調査」の分析結果をもとに、認知症のリスクと、その予防法について紹介した。認知症の人と認知症でない人を比較したところ、教育歴が短いこと、糖尿病や脳卒中、狭心症・心筋梗塞の既往があることが認知症のリスクであった。社会参加を通じた生涯にわたる知的な活動、中高年期における生活習慣病予防に努めることが、高齢期の認知症のリスクを下げる可能性がある。
8月	野沢 和也	手術室看護師について	手術室の看護師と聞いて、多くの人が想像する機械出し看護師ではなく、外回り看護師の体位調整や術中管理に関する話と、一般的に行われている、術前・術後訪問の話の他、入室時にアロマを焚いたり、患者様の好きな音楽を流したりといった工夫をしている病院もあることを紹介した。 手術室看護師は、安全かつ可能な限り安心して手術を受けていただけるよう、手術前から手術後にかけても様々な工夫を行っているので、安心して手術にお越し下さいとしました。
9月	林 愛乃	睡眠と体温の関係	我が国の5人に1人が抱えていると言われる不眠とその対策について、体温との関係に焦点を当てて紹介した。ヒトの体温変動の要因には、体内時計と熱産生・放熱機構の2つの仕組みがある。それらが睡眠と目覚めのリズムを調節しており、睡眠もまた体温調整に関わっている。よく眠るためのポイントとして、入浴や運動で眠る前の体温を一時的に変化させること、寝具や室温調整などで眠っている間の体温を調節することが効果的である。

10月	畑野 相子	秋に多い食 中毒とその 予防	食中毒がなぜ秋に多いか説明した。症状は、下痢、嘔吐、吐き気、腹痛、発熱などで、子どもの場合は重症化しやすいので注意すること。食中毒はどのような状況の中で起こりやすいのか、その原因は何か、予防方法を紹介した。対処方法は、重症であれば受診すること、下痢止めは食中毒菌を体内に閉じ込めてしまうことになるので安易に服用しないことを説明。食中毒予防の3原則は菌を「つけない」「増やさない」「やっつける」を紹介した。
11月	長井 麻希江	認知行動療 法の広がり と日常生活 への活用	近年、うつ病、不眠症などに対する認知行動療法の有効性が報告され、現在は精神科医が行った場合及び医師と共同して看護師が行った場合に保険点数が設定されている。認知行動療法の効果は、精神症状のみならず、慢性疼痛や過敏性大腸炎などの身体疾患、禁煙や食事指導などの生活習慣改善、矯正教育にも活用されている。本放送では、認知行動療法の概要を説明した後、身近な事例を用いて、日常のストレスに活用する方法を紹介した。
12月	茂庭 将彦	冬季によく 耳にするウ イルス感染 症とその予 防	まずインフルエンザについて。インフルエンザの予防はワクチン接種を受けることから始まります。接種を受けることにより罹患した場合の自らの症状の悪化を防ぐ効果と共に、感染弱者である乳幼児や高齢者への感染を防ぐ効果が期待できることにあります。その他、普段から外出時のマスク着用や帰宅時のうがいや手洗いが大切です。次に感染性胃腸炎は、ウイルスにより汚染された二枚貝などの生食を食べた数時間から1日後に嘔吐に伴う水様性下痢などの症状が特徴です。予防は難しいのですが、万が一感染した場合には、感染を拡大させないようにしてください。周辺でこのような方を見かけた場合は直ちに対応するのではなく、マスクやガウンをつけて、消毒薬を準備してから吐物の処理を行うことをお勧めします。
2019 年 1月	家根 明子	認知症カフ ェの歴史と 魅力	認知症者・家族・地域住民が集う場として注目されている認知症カフェ(以下、カフェ)の歴史と魅力を話した。カフェは、1997年にオランダのベレ・ミーセンによるアルツハイマーカフェが起源であり、①認知症の初期段階から利用できる、②認知症者と家族が共に安心して利用できる、③地域住民が持つ認知症へのイメージ転換の場になる、という魅力がある。認知症を他人事ではなく、自分のことと考える機会として、気軽にカフェを活用してもらうことを提案した。
2月	山崎 弘美	お酒につい ての基礎知 識	お酒についての基礎知識として以下の8点を紹介した。 ①普通の食事をしてお酒を飲むと肥満になるので、栄養素のバランスを考えて、エネルギー摂取量を減らす。②「ビール腹」はビールのせいではなく、食べ過ぎた分が腹部に脂肪としてたまった結果である。 ③アルコールは胃から20%、小腸から80%吸収され、その大部分が肝臓で代謝される。④飲酒によりビタミンB1とマグネシウムが不足がちになる。⑤節度ある適切な飲酒量は、ビール500mL、日本酒180mL、焼酎100mLとされている。⑥悪酔いは「チャンポン」のせいではなく、単純にのみ過ぎた結果おこる。⑦お酒を体から抜く目的で入浴しても、逆効果で、アルコールの分解はむしろ遅れる。⑧お酒は食べながら、適量範囲でゆっくりと、楽しく飲むことが基本である。
3月	吉川 由希子	病児保育事 業について	2019年4月に敦賀市内に開設される病児・病後児保育施設「はびけあ」とそのベースとなっている病児保育事業について紹介した。病児保育事業は、子ども子育て支援制度の中の1つの事業である。病児対応型、病後児対応型、体調不良児対応型、非施設型の4つの形がある。病児対応型は、自宅で病気の子どもを看なければならぬ時に、親が仕事などで見る事が難しい場合に一時的に子どもを預かり保育してもらえる。看護師や保育士が保育にあたり、体調が変化した場合は連携している病院で対応してもらえることを説明した

II 研究

1. 研究報告会

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的として、第2回敦賀市立看護大学研究報告会を開催した（平成30年10月20日(土)18:00～）。計9題の演題の申し込みがあり、口頭による研究成果や実践報告の発表が行われた。敦賀で働く者同士の交流の場となり、有意義であった等の意見が聞かれた。手順や検討事項等は次年度へと引き継いでいくこととなった。

【プログラム】

演題者と発表 座長 茂庭 将彦（敦賀市立看護大学）

1. 救命救急の場で働く看護師が実践する看護ケア
○河合 正成、高原 美樹子（敦賀市立看護大学）
2. 大腿骨疾患を抱える当事者と家族の在宅療養初期における生活上の困難と対処
○鈴木 隆史、中堀 伸枝、畑野 相子（敦賀市立看護大学）
3. 重症心身障害者における腹部マッサージを用いた排便コントロール
○近藤 好美（敦賀医療センター 看護部 ひまわり病棟1階）
4. 当院外来におけるがん患者を支える取り組み
「生活のしやすさに関する質問票」を自宅で記入することを導入して
○橋本 佳代子（敦賀医療センター 看護部 緩和ケア認定看護師）
5. 透析患者の足を守る取り組み
○渡邊 小百合（市立敦賀病院 透析センター）
6. より効果的なVA管理を目指して
○村田 久美子（市立敦賀病院 透析センター）
7. 認知症に関する生涯学習講座受講者の意識と能動のかかわりの実態
○中堀 伸枝、畑野 相子、家根 明子、木谷 尚美、鈴木 隆史、茂庭 将彦
（敦賀市立看護大学）
8. 高島コホート研究の概要とその効果
○喜多 義邦（敦賀市立看護大学）
9. 「地域に住む80歳以上の高齢者支援に個別目標を導入した健康教室の効果」
○北村 隆子（敦賀市立看護大学）



Ⅲ 地域への協力

1. 敦賀市事業への協力

敦賀市では、平成 28 年度から介護予防事業として「男性のための元気づくりスクール（男の道場）」「女性のための元気づくりスクール（女の道場）」が各 6 回実施されている。そのうち各 2 回（計 4 回）の講義を依頼され協力した。

(1) 「男性のための元気づくりスクール（男の道場）」

第 1 回の概要

- ① 実施日 7 月 17 日（火）
- ② テーマ 生活習慣病を予防しよう
- ③ 講師 北村隆子教授
- ④ 参加者 26 人

第 3 回の概要

- ① 実施日 7 月 31 日（火）
- ② テーマ 介護予防って何？
- ③ 講師 北村隆子教授
- ④ 参加者 26 人

(2) 「女性のための元気づくりスクール（女の道場）」

第 1 回の概要

- ① 実施日 平成 31 年 1 月 8 日（火）
- ② テーマ 「普段の生活の振り返り」と「ロコモティブシンドローム」について
- ③ 講師 鈴木隆史講師
- ④ 参加者 35 人

第 3 回の概要

- ① 実施日 平成 31 年 1 月 17 日（木）
- ② テーマ 「やる気と続ける気」を持続させるには
「私たちの栄養問題 昔の栄養問題 今の栄養問題」
- ③ 講師 鈴木隆史講師
- ④ 参加者 30 人

2. 美浜町事業への協力

(1) 美浜町はあとびあまつりに参加

① 日時 11月18日(日) 8:30 ~ 16:00

② 参加者 伊部亜希 高橋将 畑野相子 横山浩誉 (50音順)

③ 実施した内容

「健康のために体を動かしながら、脳を鍛えましょう」のキャッチフレーズで、コグニサイズ(認知症予防)を行った。

多くの方にコグニサイズを体験していただいた。年齢と共に、運動と課題を同時に実施するのは難しい状況が窺えた。家庭で実践していただきたいと思いパンフレットを準備した。

「コグニサイズ」とは、コグニション(認知)とエクササイズ(運動)を組み合わせた造語である。課題と運動を同時に行うことで、脳とからだの機能を効果的に向上させることを目的としている。

(2) 美浜町健康づくりフォーラム

① 日時 平成31年2月17日(日)

② 参加者

木谷尚美 鈴木隆史 高橋将 中堀伸枝 畑野相子 (50音順)
学生2名

③ 内容

- 表彰式
げんげん料理コンテスト
親子で考えた野菜たっぷりで彩りきれいな「げんげんメニュー」が紹介された
- 展示コーナー
 - ◇ 健康づくり推進協議会ワーキング部会等活動の足跡
 - ◇ 親子げんげん料理コンテストレシピ
 - ◇ げんげん運動推進集落活動紹介
- 講演会
トータルケアのまちづくりを目指して
 - ◇ 百歳への挑戦 西会津町の取り組み
 - ◇ ふるさと薬膳レストラン(いのち)
- 体験コーナー
 - ◇ おいしい・減塩・減量・虹彩食料理の試食
 - ◇ 健康度測定

3. 平成 30 年度ボランティア参加実績

平成 30 年度におけるボランティア参加実績及び年次推移を表 6-1、表 6-2 に示した。

表 6-2 ボランティア参加の年次推移

表 6-1 ボランティア参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	6月3日	クリーンアップふくい大作戦	敦賀市	気比の松原	海岸清掃	学生21名 教職員6名
2	8月23日～ 25日	第29回福井県小児糖尿病サマ ーキャンプ	福井大学医学部 小児科	福井県鯖工青年の家	サマーキャンプボラン ティア	学生6名
3	9月18日	めいほう祭り	明峰会	明峰クリニック駐車場	めいほう祭りボランテ ィア	学生2名
4	10月13日 ～15日	第18回全国障害者スポーツ 大会	国体・障害者 スポーツ大会 実行委員会	敦賀市総合運動公園	選手団サポートボラン ティア	学生111名
5	11月10日	健康応援フェスタ	市立敦賀病院	市立敦賀病院	ハンドマッサージ等の サポートボランティア	学生10名
6	2月3日	小児がんデーキャンペーン	公営担担法人 がんの子どもを 守る会	アピタ（敦賀市）	小児がんの理解、支援 を求める啓発活動等	学生4名
7	3月9日	あいあい交流フェスタ	敦賀市社会福祉 協議会	敦賀市福祉総合センター	交流コーナー運営ボラ ンティア	学生5名
8	毎月第一・ 第三水曜日	こども食堂青空	こども食堂青空	男女共同参画センター	学習ボランティア	学生4名 (随時)

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ人 数	件数	延べ 人数	件数	延べ人 数
学生	4	39	10	77	9	40	10	59	8	163
教職員	2	7	2	13	3	7	1	7	1	6

4. 地域行事参加

地域行事への参加は状況及び年次推移を表 8-1、表 8-2 に示した。

表 8-1 地域行事等への参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	7月28日	気比神宮の杜フェスタ (荒天中止)	商工会議所青年部	気比神宮周辺	展示及び体験コーナー	学生11名
2	9月3日	敦賀まつり神輿担ぎ	つるがみこしの会	気比神宮周辺	神輿担ぎ手	学生1名 職員1名
3	7月1日	和田 de 路地祭	COO+まちづくり WG	高浜町和田地区	和田 de 路地祭の運営	学生8名 教職員2名
4	12月2日	ふくい学生祭	福井学生祭実行委員会	ハピテラス (福井市)	学生の企画・運営による 学生祭	学生1名 (実行委員)

表 8-2 地域行事等への参加状況の年次推移

	26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度	
	件数	延べ 人数	件数	延べ 人数	件数	延べ人 数	件数	延べ 人数	件数	延べ人 数
学生	2	7	5	61	9	61	7	144	4	21
教職員	2	5	3	10	7	10	4	5	2	3

資料 1

看護研究方法論講座 実施要領

敦賀市立看護大学 地域・在宅ケア研究センター

1. 目的

- 1) 臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを目指します。
- 2) 看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより、看護を探究する姿勢を高めることを目指します。
- 3) 研究発表を通して、それぞれの施設の研究課題や看護活動を相互に理解することを目指します。
- 4) 大学と当該施設の良好な関係を構築し、当該施設における医療・看護が円滑に行えることを目指します。

2. 対象者

対象者は、敦賀市、美浜町及び嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者とします。

受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で 20 件程度とします。

3. 研究の進め方

- 1) 大学において看護研究方法の講義・演習を行います。
日時・内容の詳細は別途定めます。
- 2) 本学教員による研究の個人又はグループで指導を希望する方は、研究テーマを決定し、4 月末日までに研究指導申込書を用いて本学に提出して下さい。なお、研究テーマ決定にあたっては相談にも応じます。
- 3) 研究テーマに合わせて担当教員を決定します。
- 4) 担当教員決定後は、原則として共同研究者（本学の倫理審査を受ける権利の保証）として研究をすすめていただきます。
- 5) 研究発表会や学会、論文等で発表していただけることを期待しています。

平成 30 年 12 月改定

資料 2

敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項

1. 目的

研究成果や実践活動を通して、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的とする。

2. 対象者

- 1) 敦賀市及び美浜町の医療・看護・保健・福祉施設等に勤務する者
- 2) 一般市民など

3. 実施方法

- 1) 演題は医療・看護・保健・福祉等に携わる者から公募する。
- 2) 本学の教員は、原則として過去1年間に発表した研究成果を報告する。
- 3) 研究成果や実践内容を口頭発表する。
- 4) 開催は年1回とし、開催時期は秋季とする。
- 5) 報告会の世話人は大学教員が担当する。

平成 30 年度地域・在宅ケア研究センター運営会議 構成員

(○センター長、五十音順、敬称略)

木谷尚美 高橋将 (事務局) 野沢和也 ○畑野相子 山崎弘美 横山浩誉

平成 30 年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

平成 31 年 3 月 31 日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500
